

# 園長通信

ちぐさこども園 園長 榎渕 洋介

2022.12.21 Vol.24

## 《不適切な保育について考える》

最近、全国各地で虐待とも言える不適切な保育が次々と明るみになり問題となっています。

まず最初に申し上げたいのは、「今当園ではそのような保育は行われていない。また、行わないように園内全員で日々の保育に励んでいる。」と自信を持ってお約束いたします。

その上で「今後も絶対にあり得ない」「うちとは関係ないこと」として捉えてはいけないとも考えています。というのも、今回の問題が不適切な行為をした保育者の個人的資質の要因だけではないと考えるからです。「もう一人保育士を！」運動が目されるような国の制度や、見て見ぬふりをしてしまう組織風土のあり方が問題の背景にあると言われていきます。

ニュースになるような暴力は論外としても、子どもの権利やジェンダーの扱いなど、社会意識が変わっていく中で、保育者個々の意識も日々アップデートしていかねばなりません。

また、現在の国の保育者の人数配置基準は、  
0歳児… 大人1人：子ども3人  
4、5歳児… 大人1人：子ども30人  
などとなっており、そのまま適用すると、子ども一人一人を大切にすることがとても難しい基準となっています。さらには、食事の時間すら休憩にならない現場の保育者のハードな働き方の改善は業界の長年の課題となっています。

## 《ちぐさの取り組み》

山積する課題に対して、ちぐさの現在の取り組みを一部紹介します。

・担当保育者は園内外合わせて年20～30時間の研修を受け、個人の資質向上に努めています。また、研修報告により、研修内容は園内全体で共有されません。

・一人一人に応じた丁寧な保育を行うため、各クラス(学年)とも、配置基準より1～2人多い保育者を配置しています。

・写真を使ったドキュメンテーションの活用や保護者の自由な保育参加等により、保育の見える化、

オープン化に努めています。

・ICTの活用等により、業務の効率化・見直しに努めています。

これらの取り組みを実施しながら、ちぐさでは保育者個々に、そして組織として「適切な」保育ができるよう努力しています。

## 《本当の「適切な」保育を目指して》

では、「適切な」保育とはどんな保育でしょうか？虐待行為なく、無事にお預かりするのは最低限の保育であり、「適切な」保育とは雲泥の開きがあります。「適切な」保育とは、一人一人の子どもより良く育とうとする気持ちに敏感に応じ、子どもが主体的で対話的に、遊び・学ぶ場を共に創っていくことだと考えています。

これは簡単なことではなく、私たちは専門職として、今後も日々研鑽を積み重ねていく覚悟です。と同時に、園の私たちだけで成し得るのは難しいとも思っています。

子どもの一番の理解者である保護者の皆様と方向性を共有し、マイナスをチェックするのではなく、信頼して見守る温かい眼差しを園でも家庭でも子どもに向けていくことが肝要です。

遠隔カメラで監視しても、子ども(保育者も)は育ちません。共同養護者として、楽しい子育てを一緒に模索していきましょう。

## 【2学期トピックス】

●沼田市幼保こ小関連教育推進事業研究会を実施  
沼田市内の保育施設及び小学校関係者を招いて、保育を公開した上で参加者と当園保育者とで協議会を行いました。

自由な空気感の中で主体的に活動する子どもの姿と、それを支える豊かな環境と丁寧な保育者の関わりを認めて頂き、小学校以降につなげていく視点を皆で話し合う有意義な機会となりました。

ご協力ありがとうございました。

●正門脇に駐車場を整備しました。

長年の課題であった駐車場を大幅に改善することができました。どうぞ安全にご利用ください。